

永田町新潮流 平沢勝栄

俺がやらねば



国内で新型コロナウイルスの感染者が出てから半年になる。しかし、いまなお、連日多くの感染者が確認されている。

これに対し、国際社会からは「香港の自由と民主主義の死」だとして、強い懸念と非難が出ている。

例年なら、今は夏祭りのシーズンだ。しかし、今年はこのうした行事もすべて中止である。この決議には、「中国は

感染防止策の強化は大事

だが、同時に、経済社会を通常の軌道に戻すことも必要だ。新型コロナ問題の対応で、政治は真価が問われることになる。

ところで、中国は6月に香港の統制強化を目的とした「国家安全維持法」を制定し

暴走する中国とどう向き合うか



対中非難決議をまとめた自民党外交部会のメンバー。今後の日中関係はどうなるのか―8日、首相官邸

ん」として言つべきことを言わなければならない。

しかし、中国が強大な軍事力を持ち、日本の最大の貿易相手国であることも事実だ。

日本は、巨大かつ暴走する中国とどう向き合っていくかが課題で、安全保障や経済などを中心に、基軸をしっかりと

して向き合っていくことが必要だ。

要だ。

最後に、自民党内規に

ある比例代表定年制について触れたい。

これは「衆院の比例代表候補者は原則として73歳未満とする」というもので、党内にはこの年齢制限について賛否両論がある。

賛成論者はこの定年制によ

り「若者に活躍の場が開ける」とする。しかし、反対論者は「今は人生百年の時代で、お元気に活躍している高齢者も多い」という。実際、過去を見ると高齢で活躍した政治家は少なくない。

元外相の中山太郎氏は、国会における憲法論議の推進に大きく貢献した。しかし、残念ながら比例代表定年制により政界を去った。

官房長官などを歴任した故後藤田正晴氏は70歳を過ぎてから、国鉄民営化など、歴史に残る業績を残した。長年の経験や実績があったからこそできたともいえる。

能力は年齢には関係ない。若者は「柔軟性とエネルギー」を、そして高齢者は「経験と知恵」を活用し、その結果は国民の判断に任せたらどうだろうか。

(自民党衆院議員)

訪問は日本が招請したもので、その中止を要請することは日中関係に少なからず影響を与えるなどの意見が出され、結局、この部分の文言は修正された。

中国に対しては毅然(きげん)と

決議の最後には当初、習近平

平国家主席の国費訪問について「中止を要請する」とあ

た。

国際社会との約束を守り、自由で開かれた香港を維持、発展させよ」などがあり、中国に大国としての責任の自覚を強く求めている。